

本号の「憧鉄雑感」でも触れられているように、2月下旬現在、残念ながら新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の感染拡大が続いています。医療関係の集会を含めた様々なイベントも中止が相次ぎ、重苦しい雰囲気は日本中を包んでいます。こういった時期の情報伝達には、便利になった現在の方が、ある意味、昔よりも難しくなっているように感じます。医療関係者からもインパクトの強いメッセージが、真偽不明のままネットなどを通して国内外に広く流されますが、誤解の増幅だけに終わらないように願っています。

丁度入試シーズンにあたり、感染は入試実施にも影響しています。私が所属する大学では、この期間、合わせて7回の入試を行いますが、この前実施した2月初旬の試験では、2000名もの方に受験していただきました。マスク着用、アルコール消毒、別室受験等の対策は行い、何とか試験は終了しましたが、後に行う入試ほど、より感染に配慮しなくてはならない状況になっています。余談ですが、その試験中に蛾が飛び回って試験を中断せざるを得ない珍事があり（申し添えておきますが試験会場は埼玉ではなく東京都区内のビルです）、試験時間の変更などの緊急対応が必要になったものの、ウイルスに比べれば目に見える蛾の方がむしろ可愛らしく思えたくらいです。

様々なことに振り回される受験生は気の毒です。ウイルスや蛾の話ではなく、昨年度は、医学部入試の在り方が世間を騒がせましたが、今年度やり玉に上がったのは共通テストでした。次年度から、現在のセンター試験に代わって全国共通の試験として共通テストが実施されます。今回、問題になったのは、その共通テストに導入される予定の記述試験および英語の民間試験の実施方法でした。ただ、共通一次にはじまり名称が変遷してきたこの全国共通の試験は、基礎的な学力をみるためだけの試験であって、大切な記述力などの能力は大学が個別に行う二次試験で評価することを前提として行われてきたものです。そういった共通テストに記述試験等を一律に導入する意義がどこにあるのか、共通テストの方向性そのものについてもう一度考え直す必要があります。

私共の大学でもまだまだ入試が続きます。変異するウイルス、コロコロ変わる入試に負けないよう、受験生には頑張ってもらいたいと思います。（土田哲也）

— 顧 問 —

大原 國章 大塚 藤男

— 編集委員 —

土田 哲也 五十嵐 敦之 相馬 良直 林 伸和 佐伯 秀久

「皮膚科の臨床」第62巻 第3号 3月号

2020年3月1日発行（毎月1回1日発行）

定 価（本体 2,700 円＋税）

年間購読料金 定価（本体 42,100 円＋税）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発 行 所 金原出版株式会社

発 行 者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印 刷 所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

- ・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつと事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。